（昭和五年三月廿一日第三種郵便物認可）　昭和十五年六月二日　いわき　【日曜日】　第二千九百二十八號　【一】

六月一日　夕刊

（日刊ノ休ミ日曜祭日ハ休刊）
定價　一ヶ月　二十五錢　一部二錢
廣告料　一行四十錢　二十錢
發行所　福島縣平市大町二十三番地
印刷人　牛谷政喜
新いわき新聞社

陸軍省今一日發表
第廿回の論功行賞
恩典に浴す石城關係六將士

今一日發表された北中南支方面に活躍された勇士に對する陸軍省の第廿回論功行賞は今十五年一月下旬頃までの戰死者と同二月下旬頃までの戰病死者で今回この恩典に浴した石城郡關係將士は昭和十二年七月好間村古河炭鑛拔手から出征せる京都府出身の工學士石田勝利大尉が功五旭六の恩賞に遺族の感泣あるものゝ外左記五將士で各遺族は共に恩典を感泣してゐる

◎功五旭六工兵大尉小林藤太郎（好間）旭八輜上田山房一（江名）旭七騎軍吉成敏男（植田）旭八輜上小林健太郎（湯本）旭八工上竹内三郎（内郷）以上

輝く殊勳甲
大森淑男中尉
常銀平支店員

今回の論功行賞に於て平市常陽銀行支店から昭和十二年八月應召した大森淑男中尉は殊勳甲の恩賞功四旭六に浴し同銀行にも誇りとされてゐるが同中尉は茨城縣行方郡玉川村出身で昨年八月山西省の戰に敵數千の夜襲を受け僅か廿七名によつて敵の爲め包圍された陣を最後まで守り遂に戰死を遂げた勇士である

今一日から豐間町
學校で誕生記念式
本格の祝賀會は今秋擧行

皇紀二千六百年記念として縣の慫慂を受けた錦村の町制實施に亞ぐ豐間村の町制は既報の如く石城郡に出來た新しい町二つの後記豐間は七百三十戸、四千二百人の現住に今後の躍進を畫しつゝ同施行の準備中であつたが去る三十日縣の正式指令を受けて今六月一日からの町制實施に小學校講堂に於て午前九時から山野邊初代町長をはじめ役場吏員及び新町會議員並びに區長、各種團体代表、學校職員、有志者その他參列般かなる記念式を執行し町の誕生に諸計畫の成就を祈り且つ遂行の努力を誓ひ式終つて簡素な祝宴を催したが本格の祝賀會は今秋催すものゝ如くである

小名濱信用組合
今日から利下げ

小名濱信用組合では今一日から左記の如く利子の引下げをなす

▲定期年三分八厘を三分五厘　當座日歩七厘を五厘　特別當座日歩八厘を六厘に

農繁期に
共同炊事
石城郡渡邊村で

石城郡渡邊村では農繁期に於ける勞力不足をたすけ且つ經濟的な榮養食を攝るべく共同炊事を計畫されてゐたが同村大字泉田部落十二戸八十名は來る十一日から十八日まで大字中釜戸部落十五戸百二十名は來る十四日から十八日まで右實行を試みることになり平保健所も大乘氣で縣衛生課の應援を受けこれが指導にあたることになつた

社會事業の隣保館
入園兒漸く百余名
臨時生を確めて近く再募集
開館式は來る十日頃か

平市社會事業助成會に於て建設した隣保館は去る五月から開館小學校入學前の四、五、六才の園兒百名を募集中であつたが申込み現在百名を超え毎日八十名位づゝの出席兒を二名の保姆で午前八時から午後四時まで保育されてゐるが近く臨時生を除く限數を確めて（約五十名位か）前記豫定數に滿つる園兒を募る筈である、保育料は既報の如く市助成會が公共の爲めに設置されたもので園生の『お八ツ』を含む毎日五錢づゝ以外に出費を要さず區長または方面委員が右の希望を取扱つてゐるが來る三日開校式擧行その他につき役員會を開くことになつてゐる式は大休この十日頃になる模樣である

戰地の便り（下）
平市二丁市出身　鈴木孟

東洋平和の爲なら
何で命が惜からう

新東亞建設のために永遠に平和をたもつ東洋をうち樹てんが爲めに戰場を墳墓と心得て飽くまで戰へぬかねばならないのだと堅く決心致し居ります、軍歌にもありますやうに『東洋平和の爲めならば何んで命が惜しからう』○年○月に私が應召しました時、思ひ出せば平の驛頭に澤山な人々に送られて共の軍歌のなかにお別れ致しました、彼の時のことが頭にうかび出して來ると何となく故郷が懐かしくも思はれて參ります、これからも益々御國の爲めに働かれる銃後の皆様と大陸の戰線に居る我等將兵と共に手を結びまして飽くまで目的達成のため努めぬかねばなりません、では皆様によろしく御願いたします先づは戰地の御一報迄、敬具

拜啓、長らく御無沙汰致して居ります、皆様には御變りなく御奮勵のことゝ存じます、御蔭様にて小生も元氣で日を送つて居ります、中國の空も日の丸と新中國の國旗が凛々しく翻つて居ります、今日は新政府の創立で街は非常に賑はつて居ります、

新政府創立の賑ひ
平市柳町出身　井上榮市

つてゐるが今一日午前八時から本縣海軍の艦上點呼を渡邊大佐により執行された、なほ同艦は今日午後八時出航宮城縣女川港に向ふ豫定である

慰問演藝團一同
元氣で行動開始

平市から贈られた本縣代表の皇軍慰問郷土演藝團花柳登代藏師一行七名は豫定の旅を無事目的地に到着し何れも元氣旺盛にて慰問の日程その他軍の命令を受け二十五日から行動を開始し銃後の期待に副ふやう懸命に努めてゐる旨書信（昨三十一日着）があつた

四倉校の修旅

四倉小學校では篠原校長ほか訓導一名の引率で尋六生八十餘名の修學旅行を東京方面に來る十日朝四倉驛から出發一泊の翌十一日歸校の豫定

小名濱入港の
軍艦迅鯨
今日艦上點呼

軍艦迅鯨は昨三十一日小名濱に入港し同町は參觀者に賑はつた

選まれた
白衣の天使
山田村の菅野さん

日赤本縣支部では陸軍々醫學校に派遣する救護班を召集し白衣の天使九名を選ばれたがその中に石城郡山田村出身菅野きくよさん（三）がある

風薫る窓下閑談（二）
滿寿莊

蛇を斬つて渉る谷地の若葉かな　蕪村

『蛇』これは『へビ』と讀まずに『ダ』又は『ジャ』と音讀するのださうです、漢の高祖劉季の故事から出た句で史記に、劉季夜澤中を徑る大蛇の路に當る有り季劍を拔いて之を斬る

とあるのによつたものであらう、ある谷間の路を過ぐるに蛇を見てそれを斬殺して往つた、その谷間から崖上へかけて一面若葉が茂つて居たと云ふ勢ひの盛んな句で蕪村獨得の妙手腕を發揮した句であるが、かう云ふ趣向は今日では珍らしくはないが、兎に角歴史的に見ると『蛇を斬る』などゝ云ふ故事を若葉に配合したのは蕪村の創始で時代の上から云へば珍らしいのである今之れを云ひ替へて蛇を『匪賊』或は『兵匪』に代へて見ると現代の句となる、

兵匪追ふてわたる谷地の若葉かな

大陸に於ける皇軍の活躍が眼に見えるやうである、

青嵐瀧に只落ちに落つるかな　保吉

『青嵐』と云ふのは樹々の若葉青葉を吹渡る少々強い風で只落ちはピタ落ちと讀むのださうです、ハイキングして小高い山へ登つた處が瀧から頂きまで青一色の若葉である、其途中に溪流があつて一、二ケ所瀧になつて居る處がある、其瀧が何の澁滯もなく只々ドウ〳〵と青葉の中へ落ち込んで行く、これでも足りぬか…これでも足りぬか…と云ふ樣に落ちるばかりである、そこへ梢々をゆすつて青嵐がサツと吹いて來た、若葉は陽に光つて翻り瀧は只落ちるばかりであると云ふ景色である。

支那單語

價が安いと云ふをば價錢便宜でチアチエンピエンイー、公平な値段と云ふを公道價錢でコンタオチアチエン、値引をしますなら減價の場合チエンチア、折扣の時はチオウコウと云

入團記念寄附
植田町出身押田廣文君は海軍志願に合格し入團に先き立つ去る三十日金十圓の國防獻金を植田署に寄託した

司法内勤石塚巡査家事都合退職
平署の司法内勤石塚練之助巡査は家事都合により退職郷里茨城縣猿島郡神大實村に歸られるが同氏は大正十五年四月本縣巡査拜命勤續十四ヶ年ほ今次事變に應召北支に活躍昨十四年六月歸還したる勇士である

歸還軍人奉告式
平市では今一日の興亞祭公日に於て毎月行事の歸還軍人奉告式を午前八時から縣社子鍬倉神社、飯野八幡の兩社に執行、市長、市議、市會議長、國婦、受婦の代表及び官公署學校職員參席同十時半式を終つたが歸還軍人は平商業校教諭蔵原吉五郎少尉外五勇士である

トンボ鮪の豊漁
江名町の滿盛丸、安波丸、盛厚丸は千葉縣銚子沖合に出漁中であつたがトンボ鮪二千尾を漁獲して去る三十日母港に水揚げした

僞刑事の余罪
五月六日平市内徘徊中平署に捕はれた既報東海道線各地を荒し廻つた僞刑事住居不定無職詐欺前科一犯西倉富永（三）は石城郡赤井村赤井沼の作小沼八郎方をラヂオ取付と詐り現金五圓と自轉車を次で同郡好間村布澤龜治方を同樣手段で現金三圓を詐欺したほか同署の取調によつて沼津市に於て靜岡署の刑事と稱し料理屋を臨檢または故なき他人を捕へて衣類現金を不審の品だと一時預りの名目で騙取せる十數件の餘罪を自白した

新興ダイヤペン付
ウエル萬年筆
二、〇〇以上
ペン先ハ獨特ノ新合金製耐酸、耐蝕、耐磨金ペンニ劣ラヌ感觸而モ堅牢、優美、安價ノ三拍子揃ヒニテ眞ニ新興國策製品、
代理店　魁文堂
電話三一三

綠肥施用二種

有郊な使ひ方

從來綠肥栽培利用が他の肥料の如く普及しないのは綠肥の使用法にあやまちがあつたのと農家が化學肥尊重過信それに綠肥利用に對する勞力を惜んだ點にも原因があつた樣だが今日の如く化學肥配給不圓滑な時には綠肥活用を計るべきで其れも施用を有効化することである、

(1)綠肥の施用に際しては綠肥百貫に石灰四、五貫位併用、反當十五貫位の割でよい、

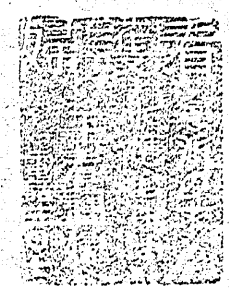
(2)早冷地山間部地方は半乾燥位にして施用し、土質が粘土質及び水分多き土地にても乾燥して施すがよい

(3)施用地が砂土質及び乾燥地に於ては生草のまゝがよい、

(4)天候が降雨の多い時期は乾燥して施し、日照りの時期に生草のまゝがよい、

(5)砂土地はやゝ深める、粘土質及び水分多き地方はやゝ淺目に土を覆ふがよい

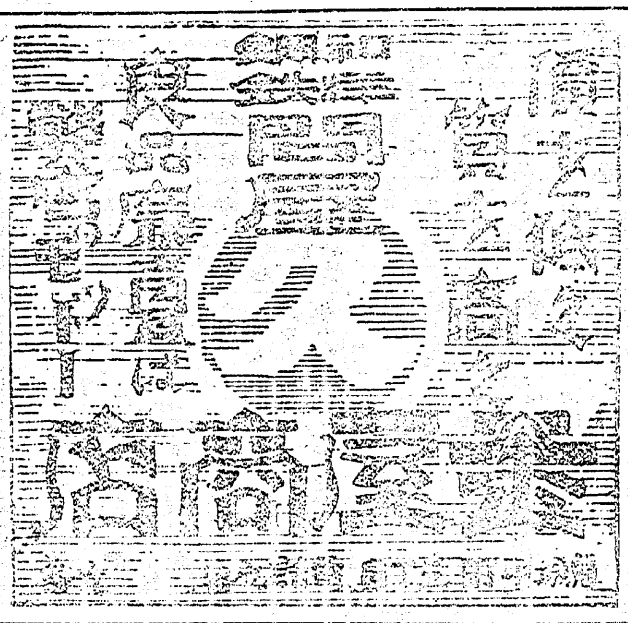
殘莖の轉用、本年は全國的に綠肥增產計畫が强化された第一年度であると同時に增產法と相俟つて綠肥の生產は豫期以上の見込みだが綠肥施用量が經濟より甚だしく多過ぎると作物及土壤に於て七分消化利用不可能と思はれる場合は其過剩分は綠肥栽培不可能な田畑其他園等に轉用するが田畑の一部に推種として置き次の作物に施用する、また綠肥二回收量法の場合第一回の刈取り收量を其當時必要作物に一時轉用し次の收獲を其土地に施用し以て綠肥の活用を安全强化し一般作物の增產を合理的にすることが目下の急務である(完り)



根本產婦人科醫院
平市南町
根本莊次郎
根本貞雄
（入院隨時）
電話三四番

大小の御宴會に御同伴に御座敷
御家族の御同伴に御座敷
いつも材料を吟味して居ります
マルヒ食堂
平市四丁目（電話一二三番）

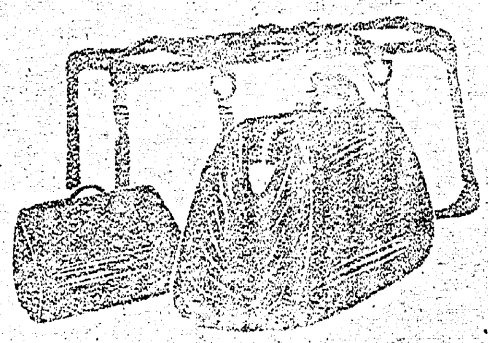
新治淋藥 六〇七號



專門 皮膚科 泌尿器科 性病科
診療時間 午前八時より 午後九時まで
江尻醫院
醫學博士 江尻伊三郎
平市田町 電話六九一番

平病院（平市元共濟病院跡）
院主 醫學博士 鈴木定藏
電話六四一番
小兒科 院主 鈴木定藏
內科 外科 副院長 高橋俊幸
一般職 皮膚泌尿器科 院長 鈴木定藏
レントゲン科 物理的療法科 藥劑科 部長 吉本孝平
診療時間 毎日午前八時より午後九時まで 夜間診療に從事す（急患は此の限りにあらず）

附屬產院 新設
妊產婦入院隨意
產科 婦人科 木村病院
平市新川町
電話一六四番



カバン・洋品類
眞砂屋（平市新道通り驛前）（電話五六）

內科、小兒科
外科、花柳病科
耳鼻咽喉科
レントゲン科
平市田町
高久病院
電話五一三番
院長 醫學士 高久忠

食事 喫茶 酒場を兼ねた。
レストラン・サロン
營業時間
開店…午前十時 御食事は午前十一時より、
閉店…午後十一時限り、
平市銀座街
電話五九二番